

中小企業等の新卒者等

人材確保・定着支援事業

群馬で就職！

合同企業説明会

会場の企業ブースいっぱいとなる88社が参加！

10月2日、前橋市・ヤマダグリーンドーム前橋「サブイベントエリア」において、中小企業等の新卒者等人材確保・定着支援事業の一環として、「群馬で就職！合同企業説明会」を開催した。

本事業では、県内の多くの企業において「人手不足」が大きな経営課題の一つになっており、新卒者等人材の採用が非常に厳しい現状を踏まえ、県内中小企業等の採用力を強化する事業を実施。「人事（採用）担当者向け研修会」や採用担当者が大学等へ直接出向き、県内の中小企業等で働くことの魅力などを説明し、学生に対し県内企業で働くことをイメージしてもらうことを目的とする「企業の採用担当者による出前講座」などを開催している。

その中で本合同企業説明会は、県内中小企業等が、新卒の就活生などと直接接点を持つことができる場を提供することを目的に実施した。

近年は、就職支援会社などの合同企業説明会がほぼ終了し、多くの企業において学生と接点を持つことが難しくなる8月上旬に、学生も夏休みになることから、合同

企業説明会を開催していたが、会場確保の関係で、今年度は10月の開催となった。

今回の説明会は、2020年3月卒業予定の大学院・大学・短大・高専・専修学校生や卒業後3年以内の既卒者（高卒含む）及び若年未就職者などが対象。



説明会開始まで企業研究

今回参加した企業は、県内に本社や事業所がある88社。説明会前日の10月1日には多くの企業で内定式が行われる中、会場の出展枠を大きく超える参加申し込みがあるなど、多くの県内企業において、非常に厳しい採用環境が続いている状況となっている。

参加した各社は、多くの参加者に関心をもってもらおうと、様々な工夫を凝らしたブース作りをしたり、タブレットやパソコンを利  
用し自社の説明を行ったりしていた。「内定を出したが辞退され、



のぼり旗の設置、パーテーション等を装飾するなど工夫を凝らした企業ブース作り  
タブレットやパソコンなど用い説明するブースも多数見られた

採用予定人数に達していない」とする企業も多く、人材確保に懸命な様子が見えられた。



説明会で配布した「参加企業情報」冊子  
就活者が関心を持つ書き方が求められる

参加した企業からは、「10月になっても採用が思うように進んでいなかったため、この説明会に期待していた。ブースに来てくれた人はさほど多くなかったが、手ごたえのある人に出会えた」、「訪問人数は少なかったが、採用試験に進んでもらいたい方がいたので有意義だった」、「想定していたよりも訪問者が少なかったが、その分中身の濃い対応ができた」といった感想がある一方で、採用が難しい状況を反映してか、厳しい感想も寄せられた。

なお、本会では、説明会当日に参加者に「参加企業情報」冊子を配布している。また、説明会前には本会ホームページ等にて「参加企業情報」を公開しており、多くの就活者が、事前に参加企業各社の情報を確認している。また、参加企業のホームページなども閲覧するなど、企業側は説明会開始前から就活者へのアピールは始まっており、関心をもってもらえるような企業情報の発信が求められる。



熱心に説明を聞く就活者

今回集まった就活者は、大学院・大学・短大・各種専修学校の新卒・既卒者と高卒者。県内の大学等出身者だけでなく、県外からも多くの就活者が集まった。

参加した就活者からは、「多くの企業をまとめて回れる貴重な機会

となった」、「様々な企業の話を知ることができて良かった」、「気になる会社があったので、じっくり検討したい」、「興味のある企業の話を知ることができた」などの感想が寄せられた。

説明会と同時開催にて設置した「カウンセリング（相談）コーナー」には、就活者からの相談に対応するため、ハローワーク高崎内にある「ぐんま新卒応援ハローワーク」より学卒ジョブサポーター3名を派遣してもらった。

「企業の探し方」、「就職活動での様々な悩み」などの相談対応や、職業興味検査ができるパソコンを用い、その検査結果の振り返り、相談者本人の適性に応じた相談・アドバイスが行われた。



カウンセリング(相談)コーナー

2019トップセミナー

# 転機をチャンスに変え、新しいステージへ

9月13日、前橋市・前橋商工会議所会館において、毎年恒例のトップセミナーを開催した。

講演Ⅰでは、「孫氏の兵法」を現代の企業経営に活かす「孫氏兵法家」として知られる株式会社N1コンサルティング代表取締役・長尾一洋氏が「時間と場所の制約を超え、組織を変える経営改革」をテーマに講演を行った。

長尾氏は、「孫氏の兵法」の中に「勝つためには先に知り先に考える」という教えがあることを紹介し、「今やITやAIの発達により経営の状態を以前とは比べものにならないほどタイムリーに把握できるようになってきている。これからの時代は、過去を反省するだけではなく、こうした環境を最大限に生かし、未来を予見し先回りをして打つ手を考える『フィードフォ



長尾一洋氏

ワード』の発想が会社経営には欠かせない重要な視点となる」と持論を展開した。

続く講演Ⅱでは、常識を打ち破る新商品を次々と日本市場に送り込んでいる株式会社ジュート代表取締役・森平茂生氏が「クロックスをゼロから3年で100億企業にさせたブランディング」をテーマに講演を行った。

森平氏は、「クロックス」を日本市場に紹介した自らの体験に触れながら、ブランディングの要諦として、「多くの人にそこその満足を与えるより、ピンポイントで狙った人達に驚きと興奮を与え続けることが秘訣」と述べた上で、「経営者はリスクを恐れないことが何より大切。易きに流れず、勇気を持って自らが正しいと信じる道を歩んで欲しい」とエールを送った。



森平茂生氏

講演終了後には、講師を務めた森平氏をはじめ、群馬県副知事・宇留賀敬一氏ら多数の来賓の出席をいただき、交流懇親パーティーを開催。パーティーでは昨年に引き続き「抽選会」も行われ、終始和やかな雰囲気の中、参加者相互の親睦と交流が深められ、盛会裏のうちに閉会となった。



挨拶する宇留賀副知事



交流懇親パーティーの様子